

自動運転技術活用に関する岐阜市の取り組み

資料1

第1回 岐阜市公共交通自動運転技術活用研究会 (H31.4.22)で示した考え方

取扱注意

○自動運転技術は、地域ごとに異なる導入への課題を解消しながら、つくりこみ、成長させていく必要がある

中心部循環バス

- 中心市街地の回遊性を高め、賑わい創出を図るため中心部循環バスを運行している。
新庁舎開設に合わせ延伸することで、市民だけでなく来街者も含め誰もが分かりやすくアクセスできるシャトル便の運行とする。
- ⇒交通量も多く、路上駐車など、自動運転技術の導入への課題が多いが、**本市のシンボリックな運行路線**であることから、**自動運転技術に対する市民の理解を深めるなど社会受容性の向上や、導入への機運の高まりが期待**できることなどから、期間や区間を限定して、**早期に実証実験**を行なう。

コミュニティバス

- 住民主体のコミュニティバスの仕組みを継続していくとともに、財政面にも考慮しつつ、利便性が高く、効率性の高いコミバスの運行に取り組む
- ⇒**技術開発の動向などを注視して、導入のタイミングを検討していく。**

ラストマイル

- きめ細やかな交通サービスを提供するため、コミュニティバスを補完する「コミュニティバスサポート便」を運行する。
- 運行効率の低い地域については、地域特性やニーズに合わせたオンデマンドタイプ等の運行形態の検討を行う。
- ⇒運行効率の低い**モデル地区を選定し、限定された地域内でのオンデマンドタイプの実証実験**を行なう。

路線バス

- 広範囲に及び、複数の路線を運行するため、自動運転技術の導入には時間を要することが想定されるため、長期的な観点で自動運転技術導入を見据えつつ、当面は、路線再編などにより持続性を高める。
- ⇒**技術開発の動向などを注視して、導入のタイミングを検討していく。**

中心部と
ラストマイルについて
ロードマップ作成

公共交通への
自動運転技術導入の具体化に向け、
国の補助・支援メニューを模索

近未来技術等社会実装事業
(内閣府)に選定 (R1.7月)

都市・地域の抱える諸課題に対して、
ICTなどの新技術を活用しつつ、
マネジメント(計画、設備、管理・運営等)
が行われ、全体最適化が図られる
持続可能な都市「スマートシティ」を
目指す

スマートシティモデル事業(国土交通省)の
「重点促進化プロジェクト」に選定 (R1.5月)

全体スケジュール(段階的に導入に向けた検討・実験)

主な事業		2019年度	2020年度	2021年度以降
全体	社会受容性を高める自動運転小型車両の実験	協議調整 → 自動運転実験・検証		
中心部	中心部循環バス		協議調整 → 自動運転実験・検証	協議調整 → 自動運転実験・検証ルートの延伸
		中心部循環バス協議・調整・手続き		新庁舎開設に合わせた新路線運行
ラストマイル	コミュニティバスサポート便		協議調整	モデル地区での自動運転実証実験・検証
		地域と協議のうえ順次導入		
	オンデマンドモビリティサービス	協議・調整	モデル地区における運行開始 (将来の自動運転を見据えたデータ収集)	